

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子ども家庭福祉 ナンバリング：2102	保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：原口政明 担当形態：単独
系列	保育の本質・目的に関する科目		
教科目	子ども家庭福祉		
授業の到達目標及びテーマ 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。 2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。 3. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解できる。			
授業の概要 子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷、制度、現状、動向等について自ら課題意識を持って学び、アクティブ・ラーニングにより、専門職としての知識を定着させる。			
授業計画 第1回：子ども家庭福祉の理念と概念 第2回：子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 第3回：子どもの人権擁護 第4回：子ども家庭福祉の制度と実施体制 第5回：子ども家庭福祉の施設と専門職 第6回：少子化と地域子育て支援 第7回：母子保健と子どもの健全育成 第8回：多様な保育ニーズへの対応 第9回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 第10回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 第11回：社会的養護 第12回：障害のある子どもへの対応 第13回：少年非行等への対応 第14回：次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 第15回：地域における連携・協働とネットワーク 定期試験：筆記		授業時間外の学習 (予習・復習：1時間程度) ・教科書を使って授業を進めるので、予習しておく。 ・発展的な課題レポートの提出を求める。 ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
授業の方法 講義、ディスカッション。授業終了時に行う振り返り用紙にコメントを入れ返却する。			
テキスト 『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版			
参考書・参考資料等 授業において適宜プリント資料を配布する。			
学生に対する評価 授業参画度 (30%)、課題 (30%)、定期試験 (40%) を考慮し評価を行う。 毎回授業「まとめと振り返り」を活用し、ルーブリック評価を行う。			
履修上の注意 毎回授業終了時に「まとめと振り返り」用紙の提出を求める。			
実務経験の有無	有	実務経験	元中学校教諭・校長、指導主事、幼保巡回相談・教育相談
実務経験を活かした教育内容 幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例をもとに授業をする。			